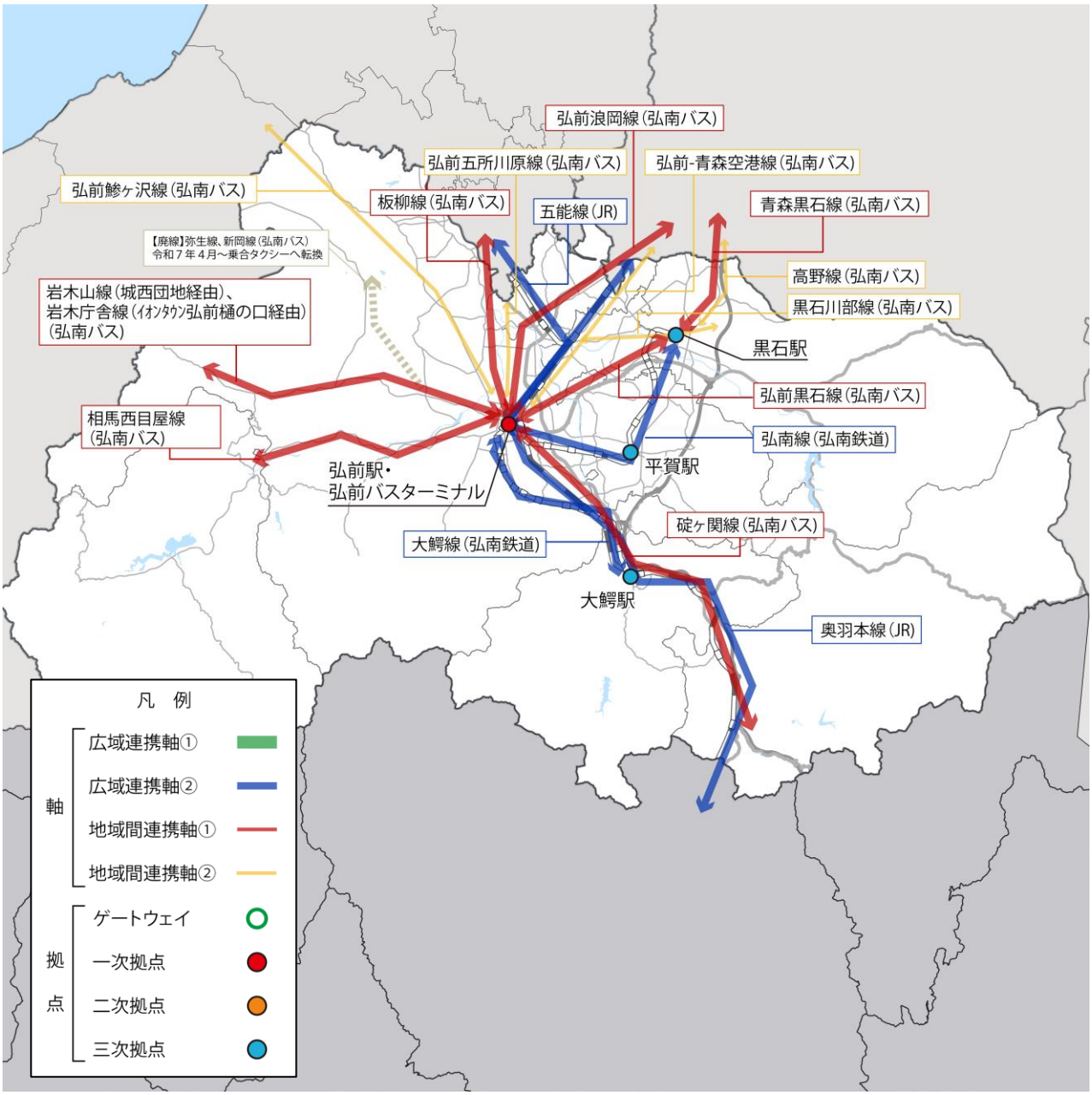
青森県地域公共交通計画　変更箇所一覧

令和７年６月変更箇所

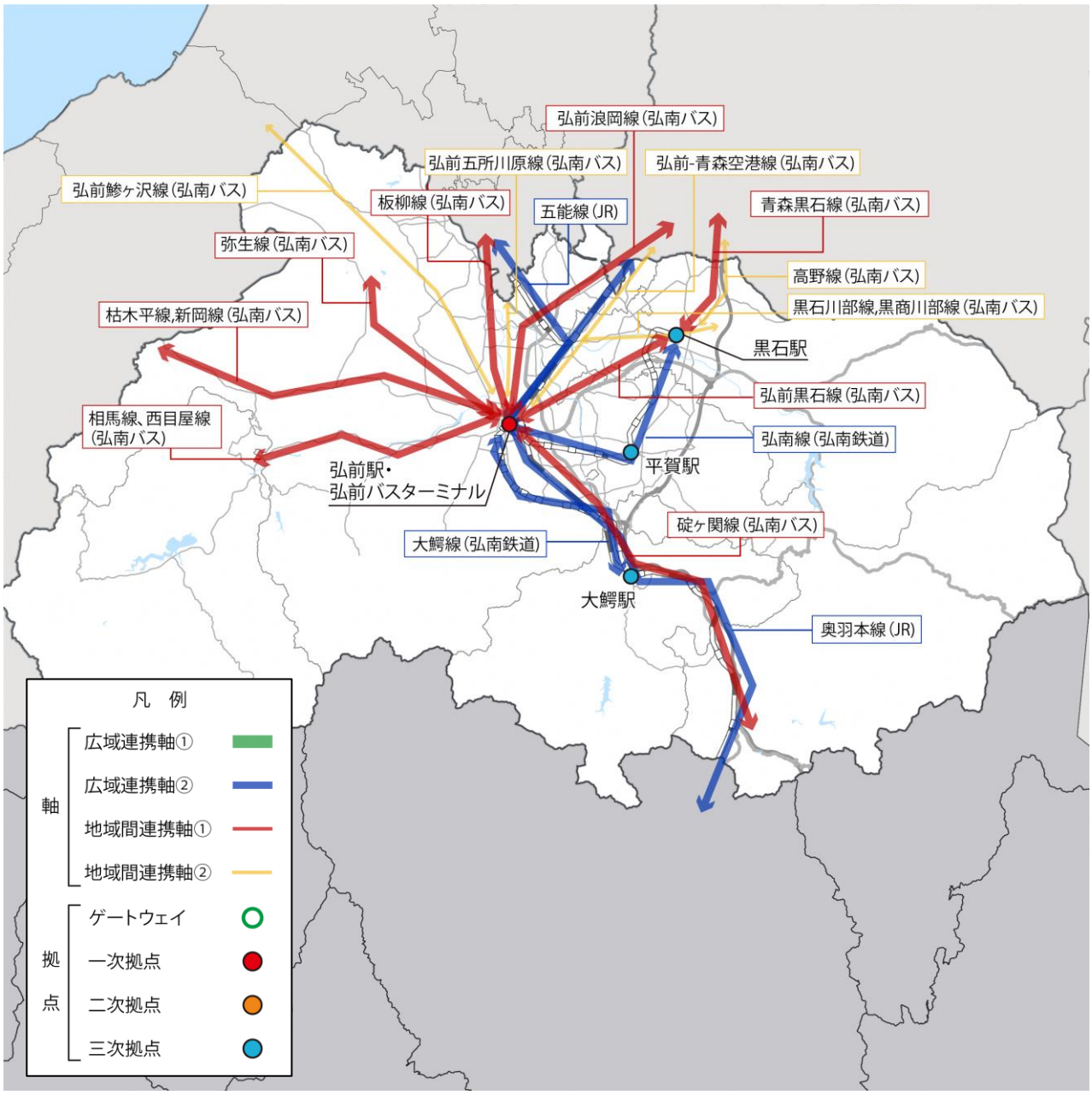
頁数	項目	新	旧	変更理由
95	中南圏域の地域公共交通ネットワーク図 路線名	岩木山線（城西団地経由）、岩木庁舎線（ｲｵﾝﾀｳﾝ弘前樋の口経由）	枯木平線、岩木庁舎線	
96	表　軸・拠点の位置づけ等 地域間連携軸①	岩木山線（城西団地経由）、岩木庁舎線（ｲｵﾝﾀｳﾝ弘前樋の口経由）	枯木平線、岩木庁舎線	
107	表　地域間幹線系統の役割・補助事業の必要性（1/3） 路線名	岩木山線（城西団地経由）	枯木平線	経路短縮及び経由地変更により、名称変更となったため
107	表　地域間幹線系統の役割・補助事業の必要性（1/3） 起点・終点	弘前バスターミナル・岳温泉前	弘前バスターミナル・枯木平	経路短縮により、起終点が変更となったため
108	表　地域間幹線系統の役割・補助事業の必要性（2/3） 路線名	岩木庁舎線（ｲｵﾝﾀｳﾝ弘前樋の口経由）	岩木庁舎線	新たにｲｵﾝﾀｳﾝを経由する経路への変更に伴い名称が変更となったため

【P.95(新)】中南圏域



※広域連携軸①：新幹線
　広域連携軸②：JR 在来線、青い森鉄道、民間鉄道
　地域間連携軸①：広域路線バス（幹線）
　地域間連携軸②：広域路線バス（幹線以外）

【P.95(旧)】中南圏域



※広域連携軸①：新幹線
　広域連携軸②：JR 在来線、青い森鉄道、民間鉄道
　地域間連携軸①：広域路線バス（幹線）
　地域間連携軸②：広域路線バス（幹線以外）

【P.96(新)】中南圏域

表　軸・拠点の位置づけ等

大区分	小区分	位置づけ	具体的な路線名・拠点名
軸	広域 連携軸① (緑線)	○本県と他県など、県を跨いだ広域的な移動・連携を支える軸 ○様々な交流の基盤となり、本県の活性化を促す重要な役割を持つため、将来的にも維持を図る	※該当なし
	広域 連携軸② (青線)	○隣接する県や市町村間の広域的な移動・連携を支える軸 ○市町村間の交流や、県民の生活を支える役割を持つため、将来的にも維持を図る	・奥羽本線、五能線（東日本旅客鉄道） ・津軽鉄道 ・大鰐線、弘南線（弘南鉄道）
	地域間 連携軸① (赤線)	○市町村間の広域的な移動・連携を支える広域性・幹線性の高い重要な軸 ○広域連携軸②と同様、市町村間の交流や、県民の生活を支える役割を持つため、将来的にも維持を図る ○一定の利便性（サービス水準）を確保	・碇ヶ関線、相馬西目屋線、岩木山線（城西団地経由）、岩木庁舎線（ｲｵﾝﾀｳﾝ弘前樋の口経由）、~~弥生線、新岡線、~~板柳線、弘前黒石線、青森黒石線（弘南バス）
	地域間 連携軸② (橙線)	○市町村間の広域的な移動・連携を支える、地域間連携軸①に次いで重要な軸 ○市町村内の交流や、県民の生活を支える役割を持つため、事業性や地域の意向等を踏まえて適切に維持	・弘前鯵ヶ沢線、弘前五所川原線、弘前－青森空港線、黒石川部線、高野線（弘南バス）
拠点	ゲート ウェイ (緑●)	○県の地域公共交通ネットワークにおいて中枢となる拠点 ○広域連携軸と地域間連携軸の一体性を高める役割を持つため、拠点性の更なる向上を図る	※該当なし
	一次拠点 (赤●)	○県内の中でも特に利用者が多く、生活・ビジネス・観光などの多様な目的の中心となり、市町村間の移動を支える拠点	・弘前駅/弘前バスターミナル
	二次拠点 (橙●)	○各圏域の中での中心的な拠点であり、一次拠点に次いで市町村間の移動を支える拠点	※該当なし
	三次拠点 (青●)	○各圏域において、広域的な地域公共交通ネットワークと、域内を運行する地域公共交通ネットワークの接続する要所となる拠点	・黒石駅、平賀駅、大鰐駅

【P.96(旧)】中南圏域

表　軸・拠点の位置づけ等

大区分	小区分	位置づけ	具体的な路線名・拠点名
軸	広域 連携軸① (緑線)	○本県と他県など、県を跨いだ広域的な移動・連携を支える軸 ○様々な交流の基盤となり、本県の活性化を促す重要な役割を持つため、将来的にも維持を図る	※該当なし
	広域 連携軸② (青線)	○隣接する県や市町村間の広域的な移動・連携を支える軸 ○市町村間の交流や、県民の生活を支える役割を持つため、将来的にも維持を図る	・奥羽本線、五能線（東日本旅客鉄道） ・津軽鉄道 ・大鰐線、弘南線（弘南鉄道）
	地域間 連携軸① (赤線)	○市町村間の広域的な移動・連携を支える広域性・幹線性の高い重要な軸 ○広域連携軸②と同様、市町村間の交流や、県民の生活を支える役割を持つため、将来的にも維持を図る ○一定の利便性（サービス水準）を確保	・碇ヶ関線、相馬西目屋線、枯木平線、岩木庁舎線、弥生線、新岡線、板柳線、弘前黒石線、青森黒石線（弘南バス）
	地域間 連携軸② (橙線)	○市町村間の広域的な移動・連携を支える、地域間連携軸①に次いで重要な軸 ○市町村内の交流や、県民の生活を支える役割を持つため、事業性や地域の意向等を踏まえて適切に維持	・弘前鯵ヶ沢線、弘前五所川原線、弘前－青森空港線、黒石川部線、高野線（弘南バス）
拠点	ゲート ウェイ (緑●)	○県の地域公共交通ネットワークにおいて中枢となる拠点 ○広域連携軸と地域間連携軸の一体性を高める役割を持つため、拠点性の更なる向上を図る	※該当なし
	一次拠点 (赤●)	○県内の中でも特に利用者が多く、生活・ビジネス・観光などの多様な目的の中心となり、市町村間の移動を支える拠点	・弘前駅/弘前バスターミナル
	二次拠点 (橙●)	○各圏域の中での中心的な拠点であり、一次拠点に次いで市町村間の移動を支える拠点	※該当なし
	三次拠点 (青●)	○各圏域において、広域的な地域公共交通ネットワークと、域内を運行する地域公共交通ネットワークの接続する要所となる拠点	・黒石駅、平賀駅、大鰐駅

【P.107(新)】中南圏域

表　地域間幹線系統の役割・補助事業の必要性(1/3)

路線名	起点・終点	事業者名	補助事業の必要性
碇ヶ関線	弘前バスターミナル・道の駅いかりがせき	弘南バス	○当該系統は弘前市と大鰐町・平川市（旧碇ヶ関村）を結ぶ路線であり、主に大鰐町から弘前市への通勤・通学や通院、買い物などの日常生活の移動手段として利用されているほか、大鰐町内の観光地（温泉など）への移動にも利用されているなど、沿線地域の生活及び活力を維持する上でも重要な役割を果たしており、運行を維持することが求められる。 ○一方、沿線人口の減少などに伴い、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。
相馬西目屋線	弘前バスターミナル・西目屋村役場	弘南バス	○当該系統は弘前市街地から相馬地域（旧相馬村）を経由して、西目屋村役場までを結ぶ路線であり、相馬地域から弘前市街地への通勤・通学や通院、買い物などの日常生活の移動手段として利用されているなど、様々な目的で利用されており、沿線地域の生活を維持する上で運行を維持することが求められる。 ○一方、沿線人口の減少などに伴い、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。
岩木山線（城西団地経由）	弘前バスターミナル・岳温泉前	弘南バス	○当該系統は弘前市街地と岩木地域（旧岩木町）を結ぶ路線であり、主に岩木地域から弘前市への通勤・通学や通院、買い物などの日常生活の移動手段として利用されているほか、岩木内の観光地（温泉・岩木山など）への移動にも利用されているなど、沿線地域の生活及び活力を維持する上でも重要な役割を果たしており、運行を維持することが求められる。 ○一方、沿線人口の減少などに伴い、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。

【P.107(旧)中南圏域】

表　地域間幹線系統の役割・補助事業の必要性(1/3)

路線名	起点・終点	事業者名	補助事業の必要性
碇ヶ関線	弘前バスターミナル・道の駅いかりがせき	弘南バス	○当該系統は弘前市と大鰐町・平川市（旧碇ヶ関村）を結ぶ路線であり、主に大鰐町から弘前市への通勤・通学や通院、買い物などの日常生活の移動手段として利用されているほか、大鰐町内の観光地（温泉など）への移動にも利用されているなど、沿線地域の生活及び活力を維持する上でも重要な役割を果たしており、運行を維持することが求められる。 ○一方、沿線人口の減少などに伴い、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。
相馬西目屋線	弘前バスターミナル・西目屋村役場	弘南バス	○当該系統は弘前市街地から相馬地域（旧相馬村）を経由して、西目屋村役場までを結ぶ路線であり、相馬地域から弘前市街地への通勤・通学や通院、買い物などの日常生活の移動手段として利用されているなど、様々な目的で利用されており、沿線地域の生活を維持する上で運行を維持することが求められる。 ○一方、沿線人口の減少などに伴い、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。
枯木平線	弘前バスターミナル・枯木平	弘南バス	○当該系統は弘前市街地と岩木地域（旧岩木町）を結ぶ路線であり、主に岩木地域から弘前市への通勤・通学や通院、買い物などの日常生活の移動手段として利用されているほか、岩木内の観光地（温泉・岩木山など）への移動にも利用されているなど、沿線地域の生活及び活力を維持する上でも重要な役割を果たしており、運行を維持することが求められる。 ○一方、沿線人口の減少などに伴い、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。

【P.108(新)】中南圏域

表　地域間幹線系統の役割・補助事業の必要性(2/3)

路線名	起点・終点	事業者名	補助事業の必要性
板柳線	板柳案内所・弘前バスターミナル	弘南バス	○当該系統は弘前市と板柳町を結ぶ路線であり、主に板柳町から弘前市街地への通勤・通学や通院、買い物などの日常生活の移動手段として利用されているなど、様々な目的で利用されており、沿線地域の生活を維持する上で運行を維持することが求められる。 ○一方、沿線人口の減少などに伴い、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。
弘前黒石線	弘前バスターミナル・黒石駅前	弘南バス	○当該系統は弘前市と平川市、田舎館村、黒石市を結ぶ路線であり、黒石市や田舎館村から弘前市街地への移動や、田舎館村から黒石市への移動に利用されている。 ○弘前市方面の沿線には商業施設が立地していることや、黒石市方面では高校や病院などが立地することもあり、買い物や通学、通院などの日常生活の移動に利用されているなど、沿線地域の生活を維持する上で運行を維持することが求められる。 ○沿線自治体・交通事業者・県が協議し、路線の維持に向けて見直し等の検討及び実施を進めてきたものの、沿線人口の減少などに伴い、沿線自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であり、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。
岩木庁舎線(ｲｵﾝﾀｳﾝ弘前樋の口経由)	弘前バスターミナル・岩木庁舎前	弘南バス	○当該系統は弘前市街地と岩木地域（旧岩木町）を結ぶ路線であり、主に岩木地域から弘前市への通勤や通院、買い物などの日常生活の移動手段として利用されているほか、特に沿線に複数の高校が立地することから、高校生の通学手段として多く利用されているなど、沿線地域の生活を維持する上でも重要な役割を果たしており、運行を維持することが求められる。 ○一方、沿線人口の減少などに伴い、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。

【P.108(旧)】中南圏域

表　地域間幹線系統の役割・補助事業の必要性(2/3)

路線名	起点・終点	事業者名	補助事業の必要性
板柳線	板柳案内所・弘前バスターミナル	弘南バス	○当該系統は弘前市と板柳町を結ぶ路線であり、主に板柳町から弘前市街地への通勤・通学や通院、買い物などの日常生活の移動手段として利用されているなど、様々な目的で利用されており、沿線地域の生活を維持する上で運行を維持することが求められる。 ○一方、沿線人口の減少などに伴い、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。
弘前黒石線	弘前バスターミナル・黒石駅前	弘南バス	○当該系統は弘前市と平川市、田舎館村、黒石市を結ぶ路線であり、黒石市や田舎館村から弘前市街地への移動や、田舎館村から黒石市への移動に利用されている。 ○弘前市方面の沿線には商業施設が立地していることや、黒石市方面では高校や病院などが立地することもあり、買い物や通学、通院などの日常生活の移動に利用されているなど、沿線地域の生活を維持する上で運行を維持することが求められる。 ○沿線自治体・交通事業者・県が協議し、路線の維持に向けて見直し等の検討及び実施を進めてきたものの、沿線人口の減少などに伴い、沿線自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であり、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。
岩木庁舎線	弘前バスターミナル・岩木庁舎前	弘南バス	○当該系統は弘前市街地と岩木地域（旧岩木町）を結ぶ路線であり、主に岩木地域から弘前市への通勤や通院、買い物などの日常生活の移動手段として利用されているほか、特に沿線に複数の高校が立地することから、高校生の通学手段として多く利用されているなど、沿線地域の生活を維持する上でも重要な役割を果たしており、運行を維持することが求められる。 ○一方、沿線人口の減少などに伴い、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が困難であることから、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要がある。